第二十三講・木竜うるし②

一 題目　次のきゃく本を読んで、あとの問いに答えましょう。

三　ふちのそば

権八がふちをのぞきこんでいる。

権八　今に見とれ、藤六のやつ、①びっくりぎょうてん、飛んで出るぞ。おらがうるしを取ってこいちゅうたら、ばか正直め、さっそくもぐっていきよった。一ぺんあの竜をおがませとけばもう［Ａ］、二度ともぐる心配はない。そこでおら様が②ひとりじめだ。あっはっは。

スポンと藤六が水の中から飛び上がる。

藤六　だ、大じゃがおったあ。大じゃがおったあ。ふちの底に大じゃがねとったあ。（飛んでにげていってしまう。）

権八　あっはっは。あっはっは。おうい藤六よ、大じゃではない、竜だぞよ。大じゃよりもおそろしい竜だぞよう。あっはっは。どうれ、それではおら様が③仕事にかかるか。……はて、④ぶるぶるふるえてきたぞ。あんまりの大金もうけだで武者ぶるいが出たか。ええい、権八、しっかりやれ。（ドブン。ブクブクブクブク。）

しばらくそのまま。

ピーチクピーチク。

藤六がおそるおそるもどってくる。

藤六　（こわごわふちをのぞきこんで）はて権八はどうしたかいな。おらあんまりこわさににげ出したが、権八一人残しといては気の毒だ。何も知らんでもぐったんではあるまいかな。おうい、権八よう。

スポンと権八が飛び上がる。

藤六　わっ。（びっくりして大木のかげに転げこむ。）

権八　た、た、たいへんだ。りゅ、竜が生きとった

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

あ。大きな口を開けておらをにらんだあ。こ、こらどうしたこっちゃ。わあい。

藤六　（大木からそうっと顔を出す。）権八よ。ご、権八よ。

権八　やっ、藤六。た、たいへんだ。

藤六　⑤おったろが？

権八　⑥おったあ。不思議（ふしぎ）だあ。

藤六　ど、どうする。む、村中に知らせるか？

権八　不思議だあ。あの竜が、おらをにらんでわあんと口を……。

藤六　わあい。（こしをぬかす。）

権八　わあい。（こしをぬかす。）

二人、しばらくそのまま。

ピーチクピーチク。

権八　（やがて）不思議だ。どう考えてもおら不思議だ。

藤六　昨日おらが入ったときにゃ、たしかに何もおらなんだがなあ。

二人、頭をそろえておそるおそるふちをのぞきこむ。

ピーチクピーチク。

権八　（やがて）藤六よ。

藤六　ん？

権八　あらなあ、あの竜はなあ、実はおらが作った木の竜だ。

藤六　なんだ、木の竜？

権八　そうだ。木竜だ。おらな、おら、⑦実は……まあなんだ、おらとおめえと二人ぎりであのうるしを取ろうと思うて、あの竜を作って番人にしといただ。

藤六　作りもんか？　あらあ。なら初めからそう言えばええに。

権八　いやそれがよ、今おらがもぐっていったら、おらをにらんで……。

藤六　そんでもおめえ、木でほった竜が動くわけはないでないか。

権八　だからよ、動くわけのないもんが動いたから不思議だちゅうだ。

〈木下順二（きのしたじゅんじ）「木竜うるし」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「びっくりぎょうてん、飛んで出るぞ」とありますが、だれがどこから飛んで出ると思っているのですか。

だれが ［　　］　どこから ［　　］

(2) ［　］Aにもっともよくあてはまる言葉を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　心配　　イ　びっくり
ウ　安心　　エ　気の毒（どく）

［　］

(3) ――線②「ひとりじめ」とありますが、だれが何をひとりじめするのですか。

だれが ［　　］　何を ［　　］

---

(4) ――線③「仕事にかかるか」とありますが、権八が、何をすることですか。

［　　］

(5) ――線④「ぶるぶるふるえてきた」のようになった理由を、権八はどのように考えましたか。権八の言葉の中から一文でぬき出しましょう。

［　　］

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(6)　――線⑤・⑥に始まる二人の会話は、話が合っているようにみえますが、二人が不思議に思っていることがちがっています。それぞれ、どのようなことを不思議に思っているのか考えて書きましょう。

藤六

権八

(7)　――線⑦「実は……まあなんだ」から、権八のどんな気持ちが分かりますか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　本心では悪いと思っているが、すなおにあやまりにくい。

イ　本心を言うのがはずかしくてしかたがない。

ウ　本心をかくして、なんとかごまかしたい。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次のきゃく本を読んで、あとの問いに答えましょう。

四　ふちの底

さっきのとおり、竜がいる。

藤六が権八を引っぱって上からもぐってくる。

権八　わあっ、①ほれ、動いた。

藤六　なんの、あら水の加減（かげん）でゆらゆら見えるだ。ほれ。（竜の所へ来て頭をたたいてみせる。）ほれ、まちがいなしの木の竜だ。

権八　（遠くから）そうか？　……②わっ、おらをにらんだ。

藤六　水の加減だちゅうに。（目をなでる。）

権八　だいじょうぶか？　おい。

藤六　だいじょうぶだ。さわってみい。（権八の手を引っぱってさわらせる。）

権八　な、なるほど。うん、うんうん。こらやっぱり木の竜だ。木竜だ。

藤六　だろが？　けど、さっきはおらもおったまげたぞ。

権八　おらのほうがよっぽどおったまげただ。ふうん、やっぱり木竜かあ。（全身をなで回す。――はなれてみて）なあるほど、水がゆれるとゆらゆらっと見えるわ。ああ安心した。……さっきはほんまに生きとると思うたが……やっぱり悪いことをしとると、気のせいでいろんなふうに見えるもんだ。

藤六　安心したろが？　さあ行こう。

権八　けど、安心してみると、やっぱり③うるしが気にかかるわ。藤六よ、④こらどうするだ？

藤六　そうだなあ。村中みんなで取りに来るか。

権八　どうだ藤六、おらと二人で山分けせんか。

藤六　おら、こんなたくさん、こ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

まるわ。それより、村のもん、連れてこう。

権八　……。

藤六　おら、ばあさまと二人ぎりだで、今のままのきこりだけでけっこうおまんま食えるだでな。

権八　……。

藤六　けど、おらどうでもええ。おめえがほしけりゃ、一人で取るさ。なら、おら帰るでよ。

権八　（考えていたが）藤六よ。

藤六　ん？

権八　おめえは気立てのええやつだなあ。

藤六　なんでや？

権八　（考えて）よし、村のもんを連れてこう。

藤六　⑤そうか。喜ぶぞう、みんな。

権八　⑥うん、一人残らず連れてこう。

藤六　ようし、おらがふれて回ってやるわ。

権八　たのむでよ。ところで藤六、この木竜はどうしようかな？

藤六　そうだなあ。

権八　そうだなあ。……うん、こらこのまま置いといて、一ぺんだけ村のもんをおどかしてやろう。おらたちだけがおったまげたでは引き合わんわ。

〈木下順二（きのしたじゅんじ）「木竜うるし」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　——線①「ほれ、動いた」、②「わっ、おらをにらんだ」と権八は言っていますが、それは何のせいだと、藤六は言っていますか。文章中から二十字でぬき出しましょう。

(2)　——線①、②のように思った理由を、権八はどのように考えましたか。権八の言葉の中からぬき出しましょう。

(3)　——線③「うるしが気にかかる」とありますが、それはどういう意味ですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　うるしを藤六に取られてしまうのではないか。
イ　うるしを集められなくなるのではないか。
ウ　うるしがいったいだれのものになるのか。
エ　うるしが流れていってしまうのではないか。

(4)　——線④「こらどうするだ」とたずねた権八に対して、藤六はまずどんな提案（ていあん）をしましたか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5)　(4)の藤六の返事に対する権八について答えましょう。

㋐　権八は、藤六にどんな提案をしましたか。

㋑　㋐の提案をしたときの権八の気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　これからも、藤六と仲良くしたい。

イ　できれば、自分のもうけを多くしたい。

ウ　全部自分のものにしたい。

エ　村の人からよく思われたい。

(6)　このうるしのやりとりから、権八は、藤六をどんな人間だと感じましたか。権八の言葉の中から八字でぬき出しましょう。

---

(7)　――線⑤・⑥は、どんな感じで音読するとよいですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　藤六はふつうに話す感じで、権八は元気よく読む。

イ　藤六はうれしそうに、権八はめんどうな感じで読む。

ウ　二人とも、とても元気に明るく読む。

エ　二人とも、しかたがなさそうに読む。

(8)　このきゃく本の場面では、とちゅうで権八の気持ちが大きく変化しています。それはなぜですか。その理由を三十字以内で考えて答えましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講・確認テスト

次の二重傍線部が修飾している言葉を選びなさい。

1　妹は（ア）　ほめられると（二重傍線）　顔を（イ）　赤くして（ウ）　喜ぶ（エ）。

2　その（二重傍線）　君が（ア）　読んでいた（イ）　本は（ウ）　とても　おもしろかった（エ）ね。

3　毛の（二重傍線）　黒い（ア）　犬が（イ）　おいしそうに（ウ）　ごはんを　食べた（エ）。

4　ぼくは　少ない（二重傍線）　おこづかいを（ア）　使って（イ）　母に（ウ）　プレゼントを（エ）　買った。

5　私の（二重傍線）　一番の（ア）　友だちは（イ）　となりの（ウ）　席（エ）の　まもるくんだ。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十三講　木竜うるし②

一題目

(1) だれが…藤六
どこから…ふち
(2) ウ
(3) だれが…権八（ごんぱち）
何を…うるし
(4) (例)うるしを取ること。
(5) あんまりの大金もうけだで武者（むしゃ）ぶるいが出たか。
(6) 藤六…(例)(昨日は何もいなかったのに、今日は)竜(大じゃ)がいること。
権八…(例)自分で作った木の竜のはずなのに、大きな口を開けて自分をにらんだこと。
(7) ウ

二題目

(1) なんの、あら水の加減（かげん）でゆらゆら見えるだ。
(2) やっぱり悪いことをしとると、気のせいでいろんなふうに見えるもんだ。
(3) ウ
(4) (例)村中みんなで取りに来るか。
(5) ㋐(例)おらと二人で山分けせんか。
㋑イ
(6) 気だてのええやつ(だなあ。)
(7) ウ
(8) (例)藤六の気だてのよさにふれて、自分のよく深さを反省したから。

〈確認テストの解答〉
１　エ　２　ウ　３　ア　４　ア　５　イ

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。